

血液透析患者の ASO に対する DF サーモ・LDL 吸着併用法の検討

医療法人 衆和会 長崎腎病院

○津久田健太、高木伴幸、宮崎健一、李 嘉明、原田孝司、船越 哲

【背景・目的】

二重膜濾過法の変法である DF サーモ法は、LDL 吸着法と同等の脂質系溶質除去と高率のフィブリノーゲン除去が特徴的な LDL アフェレーシスの一法である。しかし、本法は、健保適応の短期間では Ig - M 値が低下するため、一旦治療を休止しなければならないケースがある。今回、われわれは、DF サーモ法施行時における Ig - M 低下防止目的と両療法の相乗効果を期待し、透析患者の ASO 治療に LDL 吸着法と DF サーモ法を併用した。

【対象】

高脂血症を伴わない Fontaine II 以上の ASO を呈し、外科的手術が困難と思われる当院の透析患者 10 名（男性、平均年齢 77.1±7.6 歳、DM9 名、NDM1 名）

【方法】

対象患者を LDL 吸着単独群（以下 LDL 吸着群）と LDL 吸着と DF サーモを 1 週間毎交互に施行する併用群（以下 DFT 群）に分類し、LDL アフェレーシスを週 1 回の頻度で 10 回施行した。使用装置は LDL 吸着群が MA-03（カネカ）、DFT 群は KM-9000（川澄化学工業）を用いた。治療効果は治療前後の生化学的パラメータの比較と自覚的臨床症状の評価として WIQ 歩行障害質問票を用いて問診を、他覚的臨床症状の評価として皮膚灌流圧（SPP）の測定を行い比較、検討を行なった。

【結果】

- ①LDL-Cho の除去率は DFT 群で平均 69.1%、LDL 吸着群で 56.0%、Fib の除去率は DFT 群 42.1%、LDL 吸着群 30.1%であり、有意差は認められなかったが、DFT 群のほうが除去に優れていた。
- ②DFT 群では Ig - M が平均 58.7%除去され、リバウンドまでに 2 週間を要した。
- ③SPP 値は、LDL 吸着群は治療前 40.7 mm Hg 治療後 47.4 mm Hg、DFT 群は治療前 45.8 mm Hg、治療後 66.8 mm Hg（ $P < 0.05$ ）となり、DFT 群において有意に改善傾向が認められた。
- ④DFT 群は自覚的臨床症状に関しても軽減効果が顕著に認められた。

【考察】

LDL 吸着法と DF サーモ法の併用は、DF サーモ法の篩い分け除去による Ig - M の著しい低下を防止することができ、治療を休止することなく十分な脂質系溶質の除去が可能であった。また、両療法を併用することで DF サーモ法の加温効果や LDL 吸着のブラジキニン産生による末梢血管拡張効果といった両療法の利点が活かせるため、単独療法よりも透析患者の ASO 治療に有効である可能性が示唆された。